

登山歴3年未満、59歳の彼女は、なぜ阿弥陀北稜に登ることができたのか

以下は、大町労山機関紙に載せた原稿を大阪版用に一部修正したものです。大町では近年バリエーションルートにアタックする会員は少なく、それを鼓舞する意味もあって書きました。

1月20～21日、行者小屋から阿弥陀岳北稜をめざした。会員歴が3年に満たない59歳の女性が見事に登攀した。

この山行は、長野県連教育部主催の登山学校の一環で講師及び私を含め7名のパーティであった。

彼女は、2015年大町労山主催の春の公募山行に参加し、その後に入会したが、入会以前には、大きな山に登ってはいない。かなりテニス歴が長いので、基本的体力は十分にある。それにしても、冬のバリエーション初級ルートである阿弥陀北稜に見事に登った。アタックは一定のサポートがあったとはいえ、基本は自力による登攀である。

阿弥陀北稜には、私はずいぶん以前に一度登っただけで、今回は小屋素泊まりなので、自分としては今回が最後の登攀になるだろうと思って参加した。しかし、行者小屋まで行くのがやっとだった。最高齢の私は、翌日の登攀は途中で断念した。

この女性は、夏のテント泊を含め毎月積極的に山行している。会の岩トレや県連のトレーニングにも参加し、急速に実力をつけてきた。本人は、登山のスタートが年齢的に遅かったために、行けるときに行こうと果敢に挑戦する。雪山にも結構登るようになった。初めての年末の赤岳（白馬から日帰り）の直前にもアイゼントレをみっちりやった（一昨年には雪上訓練も）が、まだビレイの経験はなかった。北稜に行く前に確保等の訓練をする予定をしたが、体調が良くなかったので参加できなかった。

私が言いたいのは、体力があり、基本的な訓練を積み、（もちろんレベルはいろいろあるが）岩もバリエーションも行けることを彼女は実証したということだ。「岩はやらない」「雪山は行かない」という労山会員も多いが、それは間違っているわけではない。岩や雪をやるのが当然というのではなく、一定の年齢になって登山をスタートしても、必要な訓練と経験で岩も雪もやれるということを実証した彼女の経験から学ぼうということだ。危険をどう回避するか、危険にどう対応するか、普段からの訓練なしに登山はない。

私自身は、この2～3年で体力の急速な低下を実感しているため、バリエーションルートを含め、山行内容を自己点検しなければならなくなっているが、体力ある会員のみなさんは楽しい山行も、厳しい山行も、多様な山行を計画し、果敢に挑戦して、新しい会員をもっと迎えようではないか。アルピニズムなき山岳会は後退してしまう。